

山県市こどもサポート・教育センター

未来をつなぐ 2026



未来をつくる子どものために

あいさつ

こどもサポートセンター所長 大村 統子

山県市こどもサポートセンターは、子どもたちが他者の価値観や評価を軸に自分と周りを比較するのではなく、自分と向き合い、自分の小さな成長が実感できるようサポートすることを理念としています。山県市ふれあいセンター2階に事務所があります。3階には「ここふれ」という学校に行きづらいお子さんのための居場所もあります。



一人で抱えなくても、いい
一緒に抱えさせてください 一緒に考えていきましょう <<こどもサポートセンター>>

こどもサポートセンターは、相談・支援の窓口です。

不登校や登校しぶり、発達に関する心配ごと、家庭生活での困りごと、就学や進級・進学など、子ども本人やご家族の様々な困り感の相談をお受けしています。学校の先生方や地域、関係機関の方からの相談もお受けしています。例えば、お子さんの様子から支援の方法を一緒に考えたり、ケース会や懇談に参加させていただいたり、就学先について一緒に考えたりします。他にも、各種研修会の講師なども行っています。

相談の方法も、センターに来ていただく他、お電話で、あるいはこサポ職員が学校等に伺ってなど、様々な方法で対応しています。

自分の歩き方を 少しずつ見つけていく場所 <<ここふれ>>

「ここふれ」は、こどもサポートセンターが運営する、学校に行きづらさを感じている子どもたちが過ごすことのできる居場所です。まずは、心地よい空間であることを大切にしています。さらにスタッフとの関わりを通して、また学習支援（オンライン授業を含む）や学校と繋がる支援を通して、その子が本来もっている元気を再起動したり、自信や自己肯定感につないだりすることができればと考えています。山県市内に住所のある小中学生の他、高校生も利用できます。

私たちには大きなことはできません。でも、一人の子の何かの役に立てれば と思います。子育ての最前線に見える保護者の方や学校の先生方にはとても及びませんが、一緒に抱えさせていただけたら と考えています。

こどもサポート・教育センター

〒501-2192 山県市高木 1000 番地の 1

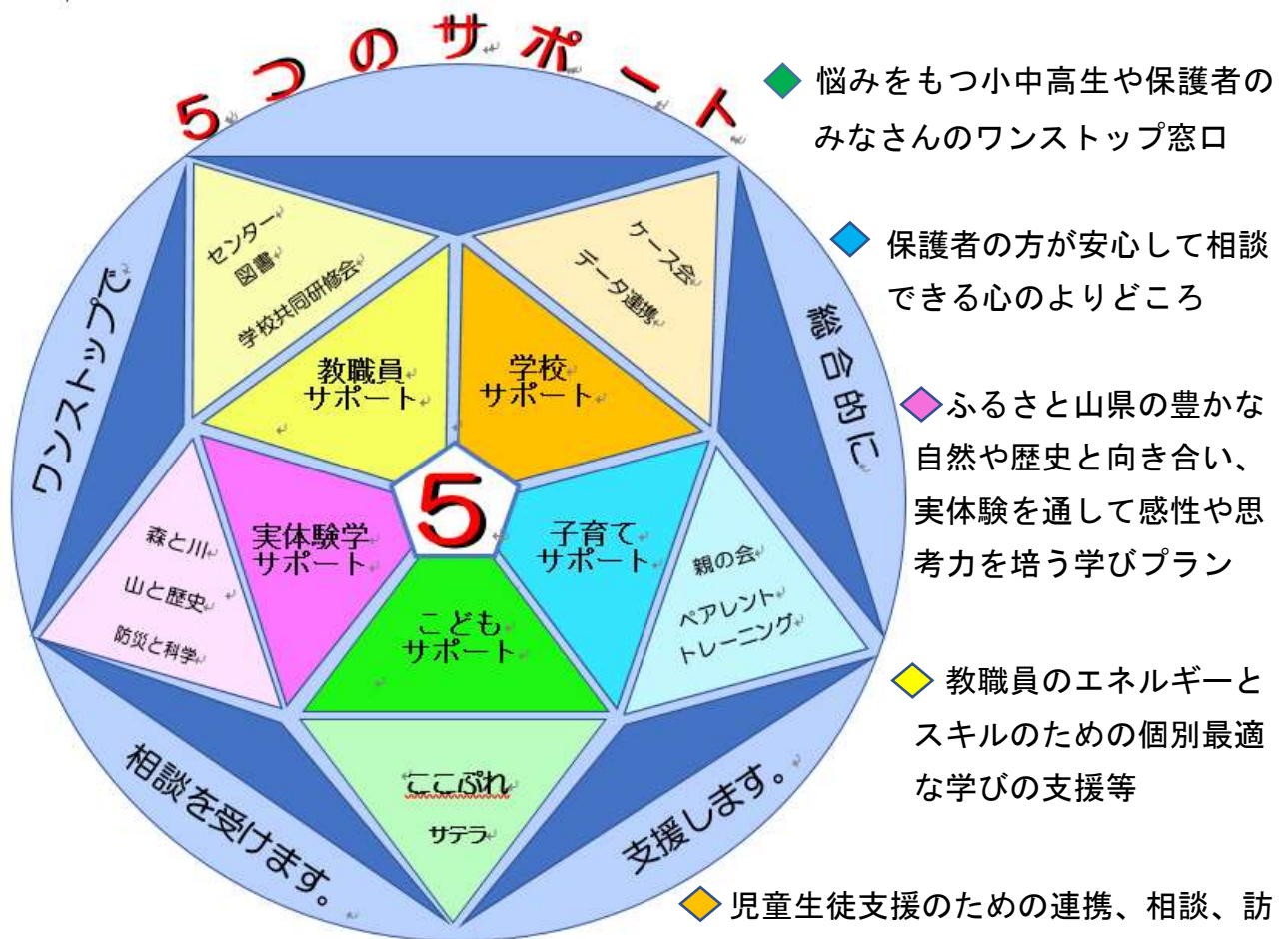
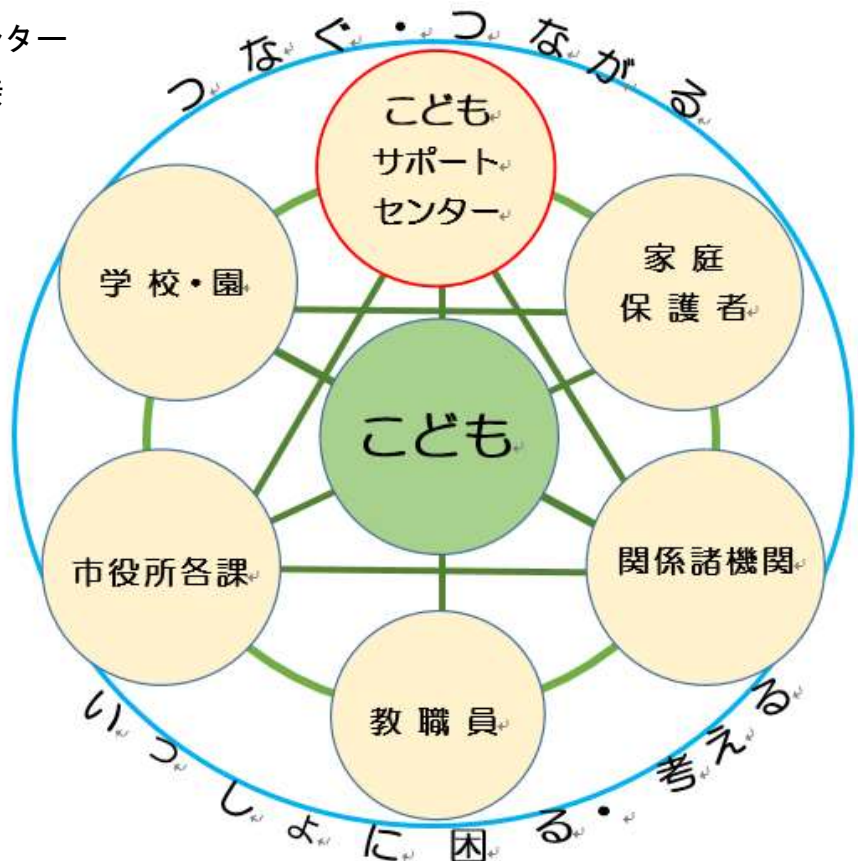
山県市保健福祉ふれあいセンター 2F Tel 0581-32-9311



こどもサポートセンターは市役所と隣接し、1階には「こども・健康課」「こども家庭センター」「こどもげんきhaus」があります。

こどもの一番の利益を考え、こどもを取り巻く環境を整える。ためにつながりま

こどもサポートセンターは、つなぐ役割き積極的に果たしています。





登校しぶりや発達の不安、集団への抵抗感や学習意欲のつまずきなどを感じている小中高生とその保護者のみなさんが安心して相談できるところです。電話や来所による相談を受け付けています。

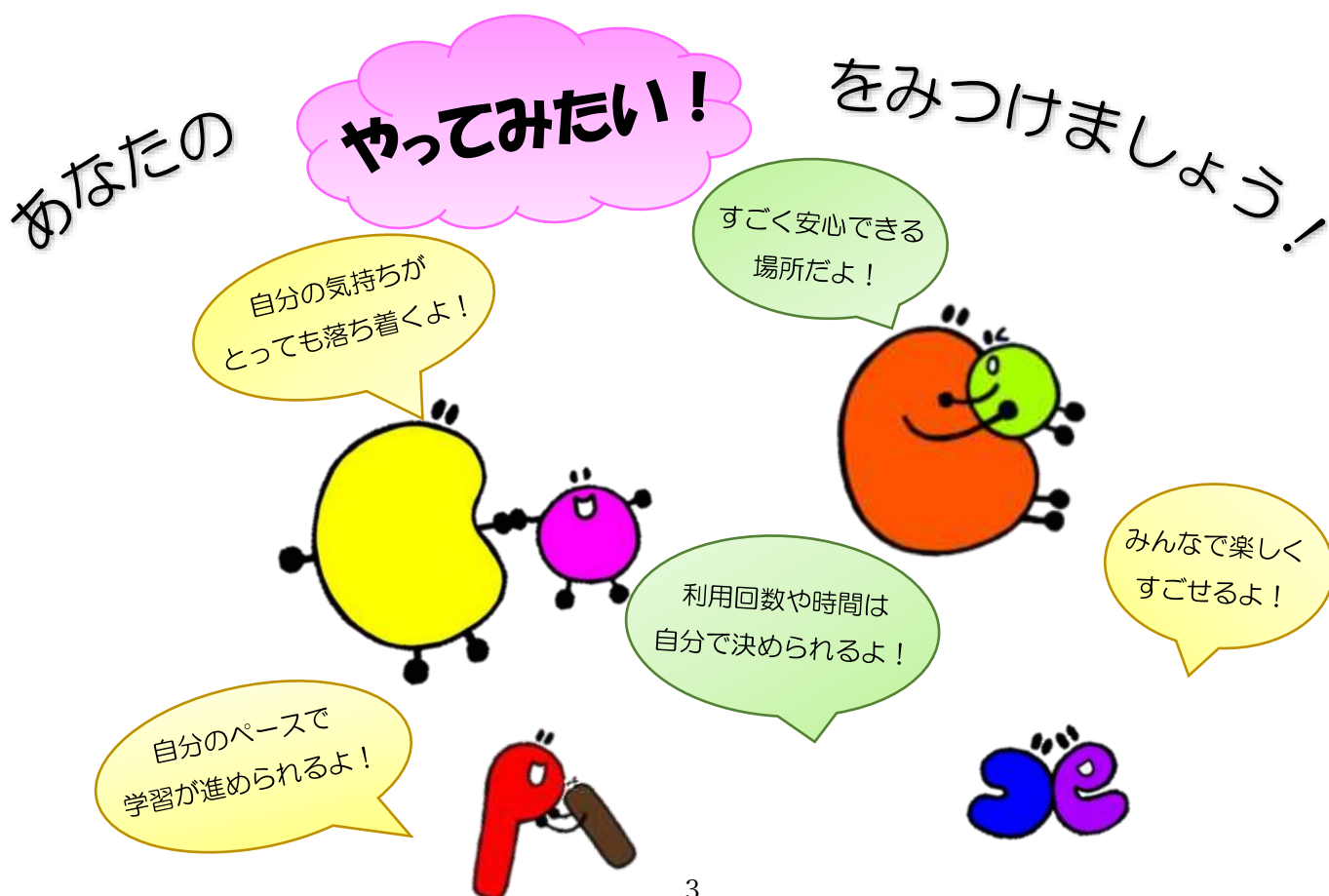
また、「学校に行きづらいなあ」と思っている山県市の小中高が安心して過ごせる第3の居場所『ここぷれ』があります。



名前に込めた
子どもたちと職員の思い

Coaleul Color 一人一人のカラー(色)を大切に
Coact 互いに協力し合いながら
Connect つながりあえる
Cozy 居心地のよい
Place 場所

○その子の願いやニーズに応じてゆっくり好きなことをしたり、誰かと楽しい活動をしたり、勉強したりできるところです。





CoCo-Place
ここぷれ



日課表

中学生		小学生	
9:15	・オンライン授業 ・自主学習 ・室内活動 (各種ゲーム 読書など) ・室内運動 (卓球 など)	・自主学習 ・室内活動 (各種ゲーム 読書など) ・室内運動 (卓球 など)	9:15
10:00			
11:00			11:00
12:00			
13:00	学習のみ	個別 1	
14:00		個別 2	
15:00			

あなたにピッタリな利用方法を
一緒に考えましょう！





こ さ ポ の 高 校 生 支 援

こどもサポートセンターは、市内在住の高校生はもちろん、高校生保護者の方の相談窓口を設置しています。まずはお電話ください。（32-9311）

さらに

「ここぷれ」も利用できます

- ◇利用時間：原則 13:30～15:30（月曜日から金曜日まで）
- ◇利用手続き：①本人、保護者がこどもサポートセンター職員と面談
②利用届を提出し、ここぷれ利用者に登録
③希望する利用日時を個別に予約
- ◇利用の仕方：自習室として利用
 - * 学習について相談したい場合 → 直接スタッフに
 - * 学習以外の相談や話をしたい場合
→「**ここいらタイム**」利用について 参照

◇利用の流れ

- ・ 2階のこどもサポートセンター事務所に来て、来所のあいさつ
- ・ 「ここぷれ」（3階）に移動し、活動開始
- ・ 学習スペースで自習
- ・ 食事は禁止、水分を取る場合はカフェスペースに移動
- ・ 設置図書の利用可。学習スペースかカフェスペースで読書
- ・ 2階のこどもサポートセンター事務所で、退所のあいさつ
- ・ 次回の予約（決められない場合は、来所希望前日までに電話で予約）

「ちょっと先生とお話がしてみたいなあ…」

「先生と一緒に時間を過ごしたいなあ…」

そんなときには『**ここいらタイム**』

- ・ 来所の際に利用希望を伝えて予約
- ・ 電話で利用希望を伝えて事前予約

利用可能：月～金 13:30～15:30 の約 30 分

場所：「ここぷれ」または別室





サテラ（山県高校生まなび支援センター）

サテラは、山県高校生を対象とした教室です。

友人関係や家庭の事情で悩んだり、何かの原因で学校に行きづらくなったりしたときの『もうひとつの学校』です。学習支援と教育相談の両面から生徒をサポートします。

高校生の学びたい気持ちを応援する場所、高校生のあらゆる心を受け止める場所、それが「サテラ」です。

山県高校のオンライン授業が受けられます。

① 保護者から学校へ
利用希望を伝える

① 生徒から担当教諭へ
面談にて悩みを伝える

② 担当教員・クラス担任と
生徒・保護者で面談を行う

② 保護者へ
利用希望を確かめる

③ 生徒・保護者に利用説明をし、
試用期間ののちに申し込み手続きをする

④ 利用を開始します。
自宅から直接センターに来てください。

- ・ オンライン授業にしっかり取り組めば授業は出席になり、単位の履修・修得が認められます。（取組内容や取組時間、単位数等に条件があります。）

開設場所	〒501-2192 山県市高木 1000 番地の 1 Tel 0581-32-9311 山県市保健福祉ふれあいセンター 3F
開設時間	月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日 9 時 00 分～16 時 00 分（長期休暇は休室）
活動内容	学習、相談・面談を各自で組み合わせて計画し活動
対 象	山県高校生で サテラの利用を希望する生徒
対 応 者	山県高校担当教諭、こどもサポートセンター職員

夏休み

学習スペース開放します！

夏休み期間中、ここふれを学習スペースとして無料開放します。
涼しくて落ち着いた空間で自主学習に取り組んでみませんか？



開放日 ○

2026		JULY					
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	
			1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

2026		AUGUST					
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	
						1	
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

時間

10:00～12:00
13:00～15:00

場所

保健福祉
ふれあいセンター
3階 ここふれ

対象者

山県市内
小学校4年生～中学校3年生
児童生徒

持ち物

学習用具
飲み物

申し込み先

◎利用には事前登録が必要です。
右のQRコードまたは、お電話でお申し込み下さい。



連絡先

山県市役所保健福祉ふれあいセンター2階
こどもサポートセンター

0581-32-9311





夏休み作品展

子どもたちが夏休み中に取り組んだひたむきな作品や作品づくりの姿に対して、山県市としての承認の場を設けています。そのことを通して、子どもたちの前向きに学ぶ姿を一層育てています。

部 門	目 的
科学作品	児童・生徒の自主的な研究活動を奨励し、自然科学への関心を高め、科学教育の振興を図る。
社会科作品	各校の優秀な作品を展示し、社会事象への関心を高め、その成果を交流することによって、社会科教育の振興を図る。
図工・美術 技術・家庭 他教科	理科と社会以外の作品で、各校の優秀な作品を展示し、その成果を交流する。また、次年度の作品の取組に対する意欲付けをする。
読書 感想文	読書に対する興味や関心を高め、主体的な読書ができる子を育てる。感想文を書くことによって、より深く、読み味わう能力と自己を見つめる態度を養う。

令和7年度各部門最優秀賞作品 <出品総数 866点 除読書感想文>

No.	部 門	学年	出 品 題 名
1	科学作品	小3	カナヘビとトカゲの生きるための工夫
2	科学作品	小3	小さな世界 ～ミジンコ～
3	社会科作品	小5	山県市のじまん粗朶を残そう伝えよう
4	社会科作品	小6	ぼくの町のゴミ問題
5	図工・美術作品	小5	ぼくが好きな山県市の風景
6	図工・美術作品	中1	ろう細工で食品サンプル
7	技術科作品	中1	猫のおもちゃをつくろう
8	家庭科作品	小6	フェルト絵本 (あさのじゅんぴ)
9	家庭科作品	中2	はちみつってすごい! ～特性を活かした料理～
10	その他の作品	小6	ぼくの走力&野球力UP計画
11	読書感想文部門	小2	ともだちを読んで
12	読書感想文部門	小3	ぼくの「ふつう」はかわりもの
13	読書感想文部門	小6	ぼくの「ララ」は何?
14	読書感想文部門	中2	「わたしは食べるのが下手」を読んで

読書感想文
出品総数 800点

【出品数】 科学作品 96点 社会科作品 91点 図工美術 277点
技術作品 136点 家庭科作品 152点 その他の作品 134点

「自由研究」は自分の『好き』を思いっきり探求できる貴重な機会です！

普段より自由な時間が増える夏休み。
自分の好きなことに時間を費やすことができた
ら、なんて楽しいでしょう。そして、自分で決め
て最後まで成し遂げる経験は、子どもが成長す
るうえで大きな糧となります。



自発的に考え、自
分で考え工夫する力
は、将来の課題解決
につながるばかり
か、新しいアイディ
アや価値を生み出す
原動力になることで

しょう。

岐阜県総合教育センターのホームページ > 関係資料を読む > 教科等のページ には、

動 機	
1	疑問や自然に対する感動が動機となっており、その動機を分かりやすく書いている。
目 的	
1	研究の目的が焦点化されており、研究の見通しが明確になっているとともに、それぞれの研究過程における観察や実験などを、筋道を追って位置付けている。
過 程	
1	仮説を立て、その検証に必要な観察、実験の方法を洗い出して検討し、最適で必要な方法を選択しながら探究している。
2	条件統一や対照実験を綿密に計画した観察、実験を行い、一般化するために必要なデータを集めている。
3	得られたデータは文章記録の他に表やグラフなどを用い、表し方を工夫して、適切な方法で処理している。
4	観察、実験に誤りはないか、根拠の不明なところはないか、より効果的な方法はないかなどと振り返っている。
5	得られた結果を基に仮説が正しいかどうかを吟味して判断し、矛盾や飛躍のない結論を導いている。
6	予想通りの結果にならない時には計画を立て直して取り組んだり、追究過程で新たに生まれた疑問・問題についてもさらに追究したりするなど、粘り強く取り組んでいる。
ま と め	
1	研究の目的に対して、何が、どのように明らかになったのか、筋道を立ててまとめている。
2	どこに未解決の問題点が残されているかについても明らかにし、次の研究への新しい芽を持っている。

【理科】

科学作品の充実に向けて
(左記)

【社会科】

作品づくりに当たって、
課題追究作品への取り組み方

【技術／家庭】

中学生ものづくり作品
コンテスト要項

等が掲載されています。
参考にしてはいかがでしょう。



ペアレント・トレーニング

「お子さんとの関係で、
こんなことはありませんか？」

- ・何度言っても朝起きてこない。
- ・勉強をしないでゲームばかりしている。
- ・子どもが言うことをきかないので、怒ってばかりいる。
- ・怒りたくないのに怒ってしまい、自己嫌悪におちいる。
- ・子どもとの関係が逆転しているようだ。

年度当初と、夏休み中に
募集をします。

ペアレント・トレーニングってなに？

- ・お子さんの行動を客観的に見つめ、よさを認めることで、
お子さんのよい行動を増やしていこうという取組です。

お子さんをやる気にさせる親の声かけや働きかけについて、一緒に
学びませんか！



第1クールは7回のプログラムを
5月から9月にかけて行います。

第2クールは7回のプログラムを
10月から1月にかけて行います。

「ペアトレを経験された方の感想」

◎今の自分の子どもへの怒り方や接し方について客観的に考えることができる機会になりました。

◎叱るよりほめる方が子どもに良いということは分かっていましたが、なぜそうなのか知ることができました。

◎他の参加者さんとの意見交流が多いから、気づきや学びが多い。自分の意見をみんながほめてくれるので、自分のモチベーションが上がるし、自分がほめられたり、肯定的に受け止められたりすることがうれしいからこそ、子どものことをほめてあげたいと思えました。

◎ペアトレを受けて、考え方のベースが学べたので、繰り返し実行していきたいです。

～みんなのしゃべり場～

配付チラシ

ココいら (CoCo-Relax)



自由に語り合える【しゃべり場】を開催しています！

うちの子って…

これって、どうしたらいいの？

イライラしちゃう私って…

お子さんの発達の課題や登校しぶりなど、同じ悩みや心配な思いをお持ちの方や、

パトレを受けられた保護者さん同士など、経験豊富なこどもサポートセンターのスタッフと共におしゃべりしませんか？

心がフワッと軽くなる、ちょっとした時間を一緒に過ごしましょう！

山県市の小・中学校にお子さんを通わせていらっしゃる保護者の方！

山県市の小学校に就学予定の年長児の保護者の方！

お待ちしております！！

《日 時》 第一回 6月2日(火)予定 13:00～14:00

「不登校や登校しぶりでお悩みの保護者さん」お話しませんか！

今年度は1学期2回、2学期4回、3学期2回を予定しています。また、同じ悩みを持つ保護者さん同士が話せるように、月ごとにテーマを替えて開催する予定です。

《開催場所》 『ここふれ』(山県市ふれあいセンター3階 市役所東隣)

《申し込み先》 こどもサポートセンター (山県市ふれあいセンター2階)

電話 0581-32-9311



※ 月曜日から金曜日 (9時から16時まで)

※ 開催日の前日までにお電話ください

実体験学 サポート



ふるさと山県の豊かな自然や歴史と向き合い、実体験を通して感性や思考力を培う学びプラン

【めざす姿】

- ・郷土にかかわる Mission への探求をとおして自分とのかかわりを考えることができる。
- ・仲間とともにMissionにすることができる。



モリアオガエルの卵

＜森と川の学校＞

対象：市内小学5年生 1泊2日活動

Our Mission

「郷土の森と川の秘密に迫ろう」
(関連：理科学習等)

1日目 午前 森の学校

- ・みやまの森フィールドワーク
 - ・展望台コースと池周遊コース
 - ・自然を形作る環境、生き物の働き
 - ・ネイチャーゲーム

午後 川の学校

- ・神崎川で化石探しと水生生物の観察
- ・円原川で川の恵み：川海苔と伏流現場の観察

宿泊：グリーンプラザみやまコテージ村
グリーンプラザみやまロッジ

- ・火起こし ・炊飯体験 等



2日目 午前 各校による探究活動

森と川の学校

- ・ 流水実験と河川礫の浸食
- ・ 現地観察とモリアオガエルの卵塊観察

森の学校

- ・ 定点カメラ回収とフィールドワーク
- ・ 定点カメラの撮影画像を観察

川の学校

- ・ 神崎川：川海苔の生息状況、生体と生産
- ・ 円原川：伏流水出水の様子



子どもの感想

みやまの森では、はっぱの匂いがすごく匂いました。

展望台の途中では川がきれいでした。歩くのがつらかったです。展望台から岐阜城と大桑城が見えました。

山県市のすごい自然が発見出来て楽しかったです。

いつもは自然にあまり関心を持っていなかったけど、自然の勉強をしているうちに疑問や興味を持つようになりました。

化石を探したり、川で小さな生き物を見つけたりして、とても楽しかったです。

川がとてもきれいでした！ただし、しびれるくらい冷たかったです。

川の水の流れを学びました。川の水は岩をさけて、2本に別れたけど、そのあと、またひとつの流れになりました。



<川の学校アクティビティ>

対象：市内小学校5年生 半日活動

Our Mission

川とふれあい、森と川の秘密に迫ろう （関連：理科学習等）

日永谷川・武儀川での体験活動 川の安全指導

My Opinion 形成

郷土の森と川のすばらしさについて、自分とのかかわりで考えを広げ、深めることができる。



ふるさと山県の自然に思い切りダイブ！
川の美しさと流れの厳しさを 全身に浴び
川との接し方 自然との向き合い方を学ぶ

＜山と歴史の学校＞

対象：市内小学6年生 0泊2日活動

Our Mission

郷土に残る戦国時代の歴史の秘密に迫ろう

(関連：社会科学習等)

1日目 調査体験学習：大桑城跡、城下町史跡

- ・ Mission の理解と作戦会議
- ・ 大桑城址にかかわる調査活動 等
- ・ 城下町跡の調査活動 (MyTheme の施行、実践)



2日目 学びのまとめと Out put

- ・ 調査体験をまとめるグループワーク
- ・ Mission に対する追求結果を発表するグループディスカッション、ディベート
- ・ 各校独自の計画

My Opinion 形成

自分から課題をもって見聞きする調査活動のよさを体験し、郷土とのかかわりから史跡を見直すことができる。

なぜ土岐氏は「四国ぼり」をこんな高さにしたのだろう。



15

斎藤道三はどのようにして大桑城を落城させたのだろう。

- 問1 あの四国掘りをどのように突破したのか。
- 問2 どのように大桑城の山を攻めたのだろうか。
- 問3 道三にはどん作戦があったのだろうか。

六万墓・・・



とても激しい戦いだったんだ。



なぜ土岐氏は大桑に城を建てたのだろうか。

対象：市内中学1年生 0泊2日活動

Our Mission

災害のメカニズムや被災者の記憶を学び、みんなで防災対策について
知見を深めよう（関連：理科学習等）

1日目 調査体験学習

- ・根尾谷断層の状況を見学体験
- ・山県市内各地の震災痕跡調査
- ・活動のまとめと明日の計画

2日目 学びのまとめとOut put

- ・個の探求テーマに沿って探求
- ・同一テーマグループの交流
- ・各テーマグループからの発表、発信
- ・相互評価、理科教師による指導・評価



My Opinion 形成

自分たちで探求した防災に対する知見と考えを発信できる。





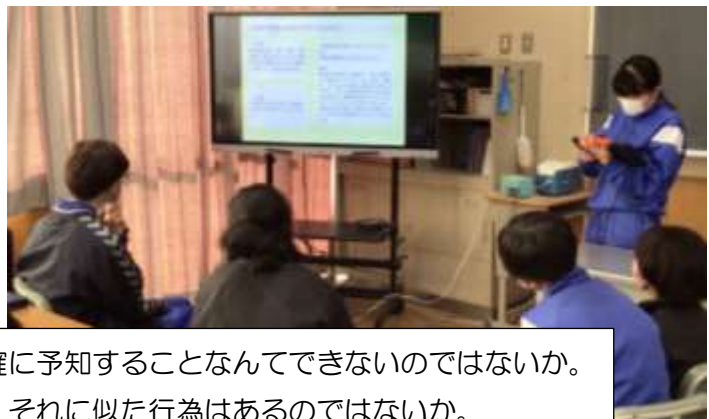
根尾谷地震断層観察館



たしか…小学校4年生で勉強したよね。

動植物の中には雷、電気、電磁波、匂いなどに対する感知力が人間に比べて格段に優れているものがある。

だとすると、動物や植物のなかには地震を予知できるものがあるのかも知れない。



【予想】そんな動植物でも地震を正確に予知することなんてできないのではないか。正確には予知できなくても、それに似た行為はあるのではないかな。

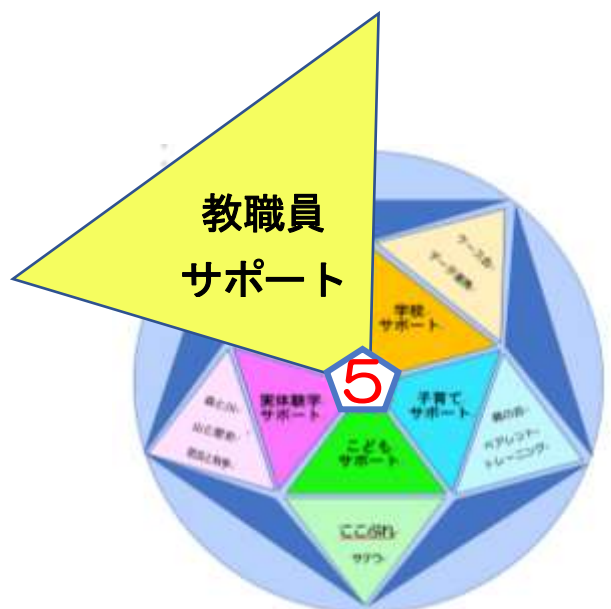


（生徒による説明）ハザードマップとは、自然災害による被害を軽減するために、被災想定区域や避難場所、避難経路などの防災関連施設の位置を示した地図です。

これは、私たちの町の洪水ハザードマップです。ピンク色で示された地域が・・・

（生徒による説明）地震は地下の断層運動によって発生します。その地震の規模が大きく、震源が浅い場合には、地表に断層が現れます。





山 県 市 立 学 校 共 同 研 修 会

教職員のエネルギーとスキルを育むための
個別最適な学びをサポートします。

自主参加型の研修

コンセプトは

**「学びたいことを
選択して学ぶ」**

です。

1 研修の方法

A：他校の校内研修に参加して学ぶ

- ①授業研究会
- ②実践研究会
- ③「〇〇教育」等で秀でた教職員の授業や校内研修
- ④「現職研修」
- ⑤特色ある教育活動（〇〇講演会、〇〇教室、〇〇実践、〇〇教育）

B：市内の関係機関の実施する研修に参加して学ぶ

- ①市役所内の各課が実施する講演・研修
- ②山県市こどもサポート・教育センターが実施する研修

C：市内の関係機関の訪問時に相談・懇談で学ぶ

- ①市役所内の各課の訪問時に相談・懇談
- ②山県市こどもサポート・教育センターの訪問時に相談・懇談

D：文部科学省等のデジタルアーカイブズで学ぶ

- ①デジタルアーカイブ等、国や県作成の研修

2 選択のための環境整備

- ・教育センターが[A]や[B]の研修について「実施予定一覧表」を作成し、テラステーションにアップする。
- ・学校は、「タカラヤマ（高富・伊自良・美山）研修カード」（こどもサポート・教育センターで作成）を活用し、職員のキャリアアップや人事面談に生かす。

3 選択の仕方

- ・**A**や**B**の「一覧表」から選んで研修カードに記載し、管理職に申し出て許可を得る。

4 申し込み・復命

- ・参加の「申し込み」や「受け入れ」の手続事務は教頭が行う。
- ・受講後に校長に復命する。

5 キャリア形成に生かす

- ・受講履歴を「タカラヤマ（高富・伊自良・美山）研修カード」に記録し、人事評価（キャリア形成）に生かす。（県教委のWeb上における研修システムで受講履歴の管理ができないものを記録する）
- ・「タカラヤマ（高富・伊自良・美山）研修カード」は人事評価票とともに保管し、面談時に活用する。
- ・期首面談などとの関係性を明確にした研修とする。

6 対象

- ・常勤の教職員とする。
- ・一人、年間1回以上、選択研修（「山県市立学校共同研修会」）を受講する。
（自校で実施する「現職研修」等への参加は、回数に含めない）

7 その他

- ・分掌等に応じた研修（基本研修～市費職員等の研修を含む～）は悉皆だが、希望者の参加も可の研修は、要項に応じて申し込む。（なお、市費職員等も「山県市立学校共同研修会」を選択・受講が可能だが、一人、年間1回以上、選択研修を受講しなければならない対象者とはせず、自主研修の扱いとする）
- ・こどもサポート・教育センター作成の「実施予定一覧表」は各学校がその都度、加除・修正する。
- ・研修等開催校は、他校からの参加者があることへの配慮に努める。
（会場、開始時刻、持ち物、当日の資料など）
- ・参加する側は、申し込みを早めに伝えるなど、開催側の準備に協力する。また参加者が担任する学級の補充（帰りの会や下校指導など）に配慮する。
- ・自校の研修の内容や受講を勧める対象者等についてPRに努める。
- ・関係機関の研修は、「山県市内」・「参加無料」のものとする。
- ・こどもサポート・教育センター職員は出前講座に対応する。校内の「現職研修」などの講師に活用も可能である。



教職員の自主的な研究実践を奨励し、
山県市の教育の振興を図ります。

- ◇ 今日的な教育課題を踏まえているか
- ◇ 創造性かつ妥当性があるか
- ◇ 継続的かつ累積的な実践であるか
- ◇ 児童・生徒の成長や変容の姿に裏付けされた実践であるか
- ◇ 研究論文として明確な論理と表記がなされているか

私たち教師が自らの実践を振り返り、改善点を見出し、効果的な指導法を探ることで、児童・生徒の学びを深めることができます。また、現場に根ざした知見を蓄積・共有することで、教育全体の発展にも寄与します。

1 研究内容

(1) 教育実践論文

- ①今年度の教育実践で、児童・生徒の具体的な姿をまとめたもの
- ②活用した指導資料、授業プリント、通信、調査データ等を基にして教育実践の展開をまとめ、教育効果について考察したもの
- ③原則として累積的な個人研究とする（共同研究は、2～3人までとする。）

(2) 教育実践記録

- ①今年度の教育実践等の内容を、記録として端的にまとめたもの
- ②個々の実践記録を、グループ・学校単位等で記録集にしたものも可とする

(3) 自作教具

- ①今年度の教育実践で活用し、教育効果を挙げた自作教具とする
- ②ICTを活用した自作のデジタルコンテンツも可とする

(4) 教育エッセイ

- ①これまでの教育実践や教育観等をまとめたもの
- ②今年度に限らず、これまでの実践等を題材としてよい

2 応募資格

- ・市内の小中学校に勤務する校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教員（含、常勤講師）、事務職員
- ・新人賞は、新規採用後、6年以内の教職員を対象とする。

3 教育実践論文の応募について

- ① 初任者は、初任校3年間のうち、1回は応募する。
- ② 1校完の職員は、2校目3年間のうち、1回は応募する。
- ③ 上記①②以外に、学校の応募方針を決める。

4 応募にかかわっての取組

(1) 市教委として

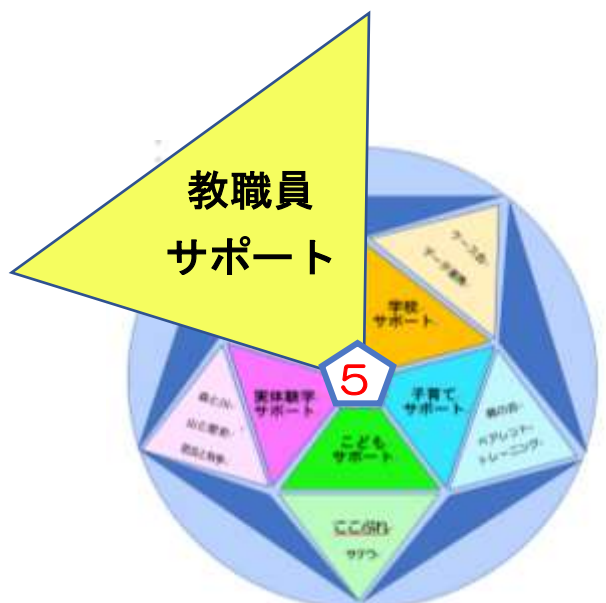
- ・過去論文をテラステーションで閲覧できるシステムを構築していく。

(2) 学校として

- ・校内相談体制を確立し、1年間の論文作成のスケジュールを計画する。
- ・7月末までに、各学校で、「実践論文執筆者」を決定する。その進捗状況に合わせ、その都度気軽に相談できる体制を確立する。

5 審査・表彰等

- ・最優秀賞・・・・・・・・・・・・・・1点（教育実践論文を対象とする）
※ 岐阜大学論文募集応募作品とする。
- ・新人賞（採用後6年以内）・・・・・・1点
※ 岐阜大学論文募集応募作品とする。
- ・優秀賞・・・・・・・・・・・・・・・・・数点程度
- ・特別賞・・・・・・・・・・・・・・・・・校長、教頭の論文
そのうち学校改善、組織改善等に取り組んだ論文は、
岐阜大学論文募集応募作品候補とする。



教育センター図書

蔵書は決して多くはありませんが、子どもの育ちに関する本を中心に所有しています。書籍のタイトルの一部をキーワードにすると以下のとおりです。

こどものころ、9歳の壁、愛着障害、特別支援、自律神経、子育て、不登校、発達（障害）、自尊感情、生徒指導、ペアレントトレーニング
学校防災、防災教育マニュアル など

「貸し出しをしています。センター事務所にお立ち寄りください」

先生方ご自身のお悩み相談

普段、職場で困っていることや悩んでいること、育休や病休からの復帰にあたって心配なことなどについて、お気軽にご相談ください。

<電話相談の場合>

・ 0581-32-9311 （匿名でも構いません）

<来室相談の場合>

・ 直接、山県市保健福祉ふれあいセンター2階、こどもサポートセンター・教育センター事務所へお越しください。（ご希望の方は、事前にお電話ください）

<相談時間>

・ 月曜日から金曜日 9:00～16:00（祝日、年末年始を除きます）

<相談内容>

◇自分自身に関する悩み・不安について

・ 仕事への意識や意欲、精神面、健康面、今後の進退 等

◇職場の人間関係に関する悩みについて

・ 同僚との人間関係、上司や指導者との関係、保護者や地域の方との関係等

◇指導上の悩み・不安について

・ 児童生徒理解、学習指導、生徒指導、学級経営、進路指導、部活動指導等

◇家庭の悩み・不安について

・ 家族、子育て、介護 その他 困りごと 等



こサポ（こどもサポートセンター）訪問

◆教育現場（学校）に近い位置で「困り感」「困りごと」を一緒に抱え、一緒に困る。それが私たちの「サポート」です。

◆先生方の肩の荷が少しでも軽くなることを願って訪問します。

一緒に困り、考えます。より**b e t t e r**なサポートを とともに探ります。
必要と思われる機関や人とつないでいきます。

◇「心配だな」「相談したいな」「今後、相談するかも」というお子さんの情報を
いただいておく

- ・現時点で行える支援やサポートを検討することができます。
- ・今後、支援につながることを想定することができます。
- ・保護者から相談があったとき、素早く対応することができます。
- ・関係機関から問い合わせがあったとき、初動が早くなります。

データ連携実証事業にかかわって、学期 1 回程度の訪問 ★ を計画しています。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
データ変換 分析												
こサポ訪問												
アセスメント												

★ R7のデータロジックでの支援

★ R8のデータロジックでの支援

STAR アセスメント

SDQ 実施

保護者アンケート



「ダビンチに行こうか」

児童生徒が対等な関係性の中で、多種多様な考えを出し合い、新たな価値をデザインする学習環境として整備したのが「ダビンチルーム」、ラウンドテーブルです。

「人と違った意見が認められる空間」
（異見交流の場）
「人の正解に自分を寄せることなく、
自分の正解をもつ場」

山県市の小中学校は

「自分の正解」をねばり強く追求し、表現できる子どもを育てています。

グループ学習での期待できる効果				正解のない問題
① 自分で調べなかったこと、思いつかなかったことを仲間から学ぶ。	② 仲間と自分の考えを比較して新たな知識を得たり、自分の考えを深めたりする。	③ 仲間と互いの考えを交流したり、教え合ったりすることで学びをより深める。	④ コミュニケーション等、人間関係を構築したり、社会的スキルを獲得したりする。	⑤ 正解のない問題について考え、お互いの考えを聞き合い、違いを認め合う。



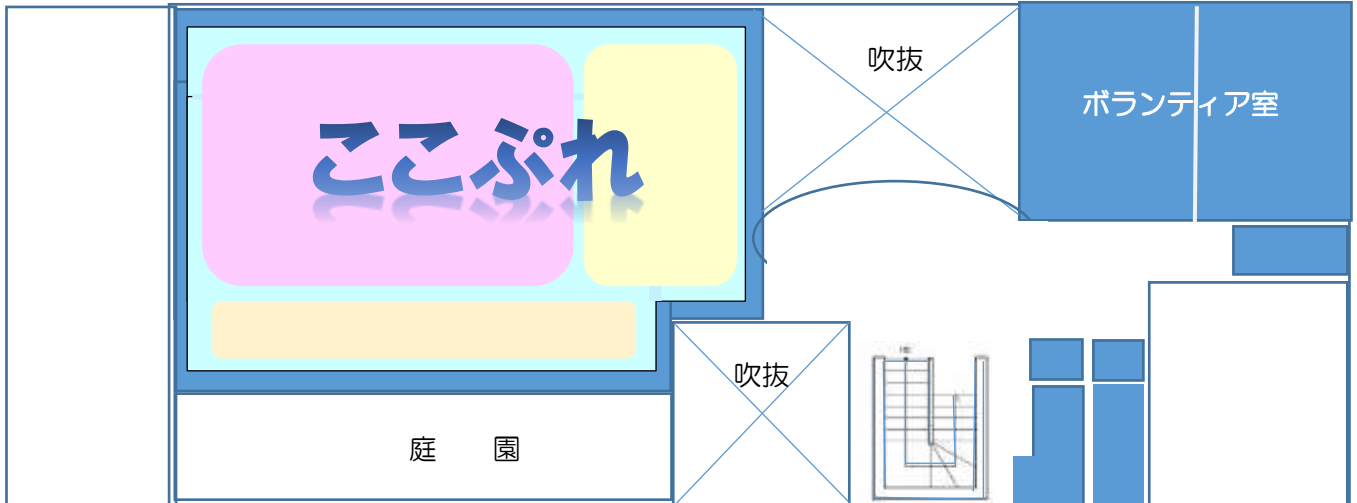
学校の特色が際立つ
「ダビンチルーム」
に進化

すべての子どもが
「成長」を実感する教育
「チャンスのある学校」
への改革



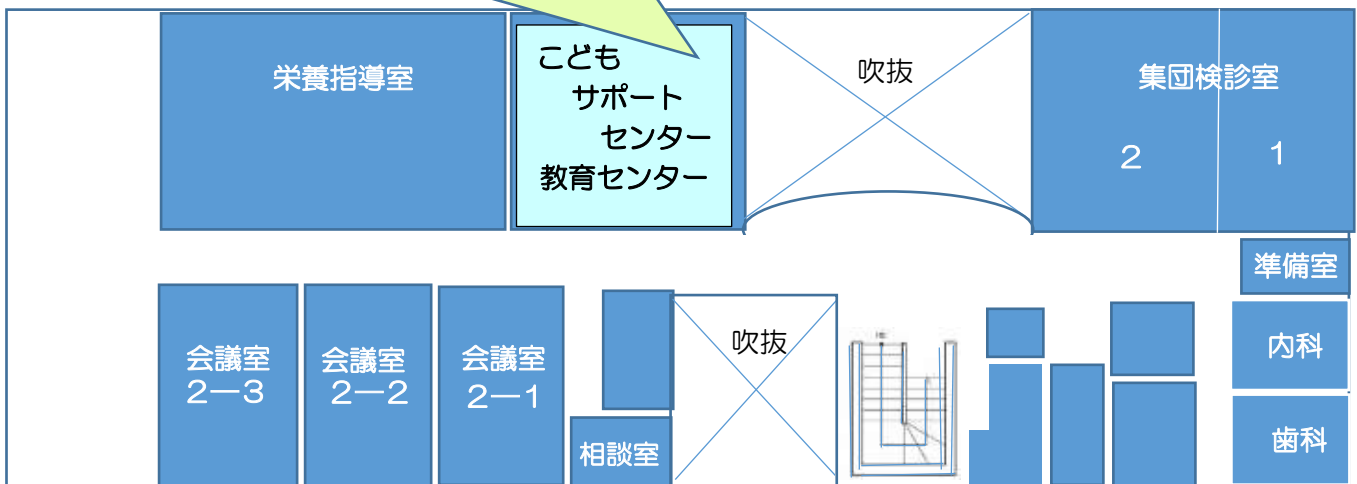
山県市保健福祉ふれあいセンター

3 F



みなさんのセンターです。いつでもお待ちしております。

2 F



正面玄関

1 F

